



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和4年
11月16日
(水)
No.16

研究授業，続々と実施 子どもたちの具体的な姿の設定

日 時	学年・プロジェクト名	本時の目標
10月6日 (木)	小学校3・4年生 「とも(共・友)に いきる(生・活)」	自分たちが見つけた表現方法と発表の内容との関係について整理・分析することができる。
10月21日 (金)	小学校1・2年生 「ふくとみいいね！ おしえたい！」	気付いたことを整理する活動を通して、働いている人の思いやその場所の工夫や良さについて交流するとともに、自分と友達の気づきを比べながら話し合うことができる。
11月7日 (月)	中学校3年生 「福富提言」	さまざまな方法で収集した情報を整理・分析し、福富のよりよい未来の実現に向けて、検証を進めることができる。

上記の3回の研究授業では、FIT通信15号でお願いした2つの意識すべきポイントである、

POINT.1 振り返りを活用した授業展開 ・ **POINT.2 ルーブリックに対する、子どもたちの具体的な姿の設定**

を実践した研究授業を行っていただきました。特にPOINT.2については、小学校3・4年生は検討会の時に確認し、小学校1・2年生と中学校3年生では、指導案に子どもたちの具体的な姿を組み込んでいただきました。ルーブリックのままでは、表現が抽象的で分かりづらいです。ルーブリックに対する、

子どもたちの具体的な姿の設定を指導案上で行っておくことで、目指す資質・能力が育成できたのかどうか、教師側の見取る準備ができます。どのような発言、行動が現れたら目標達成のB評価になるのか、A評価とB評価の違いは何なのか…。できるだけ具体的な姿を設定して授業に臨むようにしましょう。

ここでよく議論になるのは、「子どもたちに具体的なルーブリックを提示すれば、子どもたち自身が資質・能力の育成を意識して活動するのではないか？」ということです。ゴール地点が明確になれば、確かに進みやすいと思います。しかし、ゴールにたどり着いてしまえば、それ以上の成長を目指して活動を進めることは難しくなってしまいます。課題を探究していく流れの中で、先に進んでいる子どもの成長を止めないためにも、本校では詳細なルーブリックは教師側のみが持ち、子どもたちには項目だけ提示という形で進めていきたいと思ひます。 **指導案上の具体的な姿：例**

そのためには、子どもたちが自覚していなくても見取ることができる前述の準備が必要になります。

6. 本時のルーブリック	
A	B
企画・実行について、自分と友達の気づきを比べながら話し合うことができる。(記者・観察・表現) 企画・実行について、自分と友達の気づきを比べながら話し合うことができる。 ・他の気づいたことと△△さんが気づいたことは□□ ・気づいたところが似ているね。 ・○○と△△は一緒に出来たみたいと思う。理由は… ・○○と△△はつながると思う。	企画・実行について、自分の気づきと友達の気づきを比べながら話し合うことができる。 ・△△さんの意見を聞いて、○○がいいと思う。 ・○○と△△では、○○がいい。 ・△△さんの○○も気づいた。理由は…



生活科と総合的な学習の時間の違い

本校が指定を受けている「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」では、趣旨の中に「PBLの考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践する」とあります。今回、小学校1・2年生で研究授業を行っていただきましたが、生活科と総合的な学習の時間の違いは何でしょうか？簡単に下記の表にまとめてみました。



生活科	総合的な学習の時間
教科であり、ねらいに基づく「 教育内容 」が定められている。	教科ではなく、ねらいのみが示されている。「 教育内容 」は各学校に任されている。
<資質・能力の三つの柱> 知識及び技能の 基礎 思考力・判断力・表現力等の 基礎 学びに向かう力、人間性等	<資質・能力の三つの柱> 知識及び技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力、人間性等
体験と表現の繰り返し	課題の設定→情報の収集 →整理・分析→まとめ・表現→…

生活科には、**幼児教育と小学校の教科教育をつなぐ**役目があります。小学校入学前に身に付けた力を使って、円滑に小学校の活動に入っていけるように、活動が計画されています。本事業では、小・中学校の生活科と総合的な学習の時間の系統的な単元開発を行っています。しかし、9年間をつなぐだけでは不十分です。子どもたちにとってよりよい生活科、総合的な学習の時間にするためにも、それ以前の活動との関わりも意識していきましょう。

これからの予定



- 小学校5・6年生 研究授業
授業公開(5・6校時)
協議等はいりません。
気づきは付箋に書いて岡までお願いします。
11月終わりから12月はじめに実施予定
- 研究紀要に向けて
 - ・アンケート
児童・生徒 + 教職員
12月中旬に実施予定
 - ・単元のまとめ・振り返り
児童・生徒に、資質・能力について記述してもらいます。
 - ・授業の成果物
研究紀要で活用させていただこうと考えています。まとめておいてください。
ご協力よろしくお願いいたします。

先達の言葉

人間は、「他人の経験を利用する」という特殊能力をもった動物である。

R・G・コリングウッド(イギリスの歴史学者)

研究授業の準備や指導案の作成など、経験をすることによってさまざまな学びがあったと思います。学んだことをみんなで共有し、活用することができれば、研究授業の成果は何倍にもなります。どんなところを工夫したのか、他の学年でも生かせるところはどこかなど、積極的に交流しましょう。